

海域ワーキンググループ経過報告及び今後の予定

1. 検討経過

- ・ 平成17年度：4回開催し計画のスキームを助言
- ・ 平成18年度：4回開催し計画スキームに沿って内容の助言
- ・ 平成19年3月：計画素案について、科学委員会に報告

2. 平成19年4月以降の検討状況等

(1) 科学委員会へ報告後の主な変更

ア 日露間の生態系の状況把握に関する協力（原案3p）

- ・ 6月7日にハイリゲンダム・サミットで日露首脳会談が行われ、平和条約交渉の環境整備として、「北方4島を含む日露の隣接地域における生態系の保全及び持続可能な利用に関する協力は、日露両国間の新たな協力分野として重要であり、専門家会合を本年秋に開催することで一致」との合意に基づくもの

イ トドの記載（原案8p・16p）

- ・ 8月10日にプレスリリースされた水産庁の報告をもとに、トドの最新の調査結果による資源量の傾向及び科学的手法による捕獲頭数の算出を記載

(2) 住民参加

ア 斜里町及び羅臼町において、環境省及び北海道が桜井座長の出席も得て素案の住民説明会を実施

6月19日 羅臼町 漁業協同組合会議室にて

6月27日 斜里町 漁村センターにて

イ 9月1日から1ヶ月間、パブリックコメントを実施

3. 海域ワーキンググループの今後の予定

- ・ パブリックコメントを行い行政が所要の経路を経て計画を確定するが、計画の英訳や来年2月に予定されている世界遺産委員会の視察団の対応が必要
- ・ このため、本年12月に海域ワーキンググループを開催し、これらの対応を検討